オオウシノケグサ（在来高山型）

Festuca rubra L. var. rubra

イネ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	該当なし

選定理由

もともと個体数が少ない。外来の系統の移入により競合あるいは交雑の影響を受けるおそれがある。（現況：RO）

形　　態

新芽の一部は外鞘的に伸びて匐枝状になり、株はややまばらに叢生する。小穂や葉鞘は赤紫色に染まることが多く、しばしば全体に粉白色を帯びる。護穎の先には明らかな芒がある。なお、英名でレッドフェスクまたはクリーピングフェスクと呼ばれる外国産の系統が牧草や緑化用として移入され国内各地に帰化している。外来のものはより大型になり、根生葉を多数出してやや密に叢生するが、各部の特徴は在来のものと酷似している。学名上は同じvar. rubra が充てられるため、和名もオオウシノケグサと呼ばれ、在来のものと名称の上で区別されていない。

国内分布

在来の高山型は北海道、本州（中部以北）に分布。

県内分布

白山高地区。

生態など

多年草。花期は6～8月。

生育環境

亜高山帯～高山帯の砂礫地や崩壊地。

危険要因

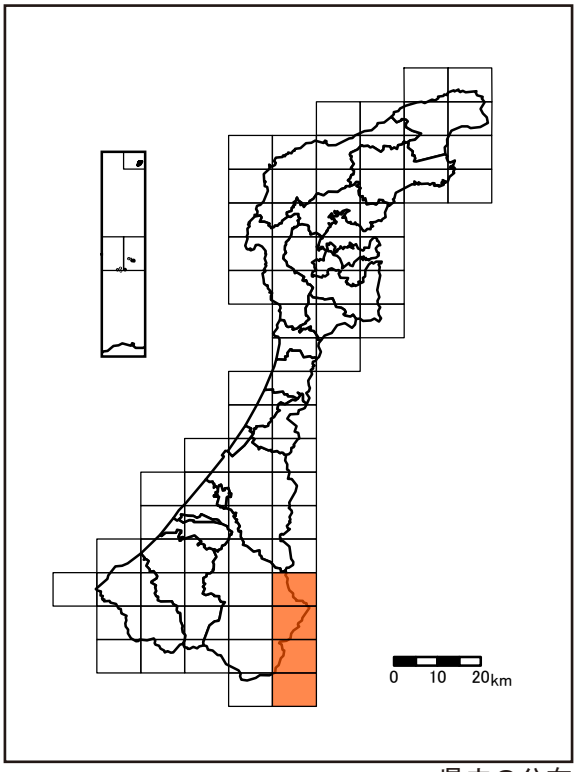
外来の系統が、白山スーパー林道や白山砂防に伴う緑化に用いられ、自生地に隣接する地域でも殖えており、競合または交雑による遺伝的汚染を受けるおそれがある。

特記事項

生育地の大部分は白山国立公園特別保護地区内にある。なお、前版ではミヤマオオウシノケグサの名称とvar. baicalensis の学名を充てたが、これは適切ではないと思われるので、名称を上記のように改めた。ただしこれも仮のものである。また、能登半島の海岸にも自生の系統があり、別の変種ヒロハノオオウシノケグサ（var. pacifica Honda）に含められるものと考えられるが、外来のオオウシノケグサは海岸付近でも緑化に用いられており、これについても同様の影響が懸念される。在来の系統と外来の系統を区別して認識する対策が早急に必要である。

本田正次.1930. Monographia Poacearum Japonicarum . 東京大学理学部紀要
大井次三郎.1941. 日本の禾本科植物　第一. 植物分類地理 Vol.10:95-135.
N.N.Tsvelev.1984. Grasses of Soviet Union (Eng.ed.). A.A. Bakema, Rotterdam.

写真（図）はありません。



県内の分布